

# 戦争も核兵器もない平和な世界に

9月2日(土)、大田区消費者生活センターで「2017ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ・沖縄 報告会」が行われました(主催・東京南部生協、共催・城南保健生協)。毎年、広島・長崎の平和祈念式典、沖縄

## 原水爆禁止2017年世界大会に参加して

今年、広島・長崎に原爆が投下されてから72年目を迎えました。7月7日には『核兵器禁止条約』が採択されました。しかし、核の傘に依存している日本



品川原水協で参加 (右から2人目)

は、その条約に賛同していません。そのことに違和感と恥ずかしさを感じました。長崎では核を許さない、廃絶させようと日本中から集まった人たちに加わり、反対運動の大事さ、大切さを学びました。「微力ではあっても無力ではない」、一人ひとりが声をあげることが、世界を動かすことができる。分科会では、被爆遺構めぐり語り部の方からの原爆のすさまじさ、歴史資料館では映像や写真で悲惨さを知りました。



ピースアクション報告会

8月9日、今年は雨が降りました。72年前は原爆直後に黒い雨が降ったそうです。語り部の方は、今でも蝉の声を聞く度に胸が痛むそうです。平和祈念式典での長崎市長の平和宣言より「...最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです。戦争体験者や被爆者からの平和のバトンを途切れさせることなく未来へつないでいきましょう。被爆者が私たちに示してくれたように、小さなまちの平和を願う思いも、力を合わせれば、そしてあきらめなければ、世界を

動かす力になることを。長崎から、平和首長会議の仲間たちとともに世界に発信します。そして、被爆者が声をからして訴え続けてきた『長崎を最後の被爆地に』という言葉が人類共通の願いであることを示します。世界はまだ平和ではありません。私は微力ですが、二度と同じような不幸が起らないよう反対を訴え続けようと思います。

西品川支部からは、三ツ木診療所事務の齋藤明さんが長崎大会に行きました。大会へ送り出すために、支部では反核フェスティバルや署名行動、参加者からの報告会を毎回行い、平和への願いをつなぎ続けています。



地域の方に報告する齋藤さん

『憲法こそ たからもの』(8月6日開催) 来場者アンケートから 8月6日に開催された「憲法こそ たからもの」(講演:伊藤真さん、スペシャルライブ松元ヒロさん)では、1287人の方に採場いただきました。講演終了後、アンケートをお書きくださった方は477人。こうした講演会では、すごい回収率に感じています。そして、多くの方が印象に残ったことを、たくさん書いて下さいました。その一部をご紹介します。

● わかりやすい説明で、この先、大人になった時、必要になってきて、今聞いておいて得をしました。(10代)

● ヒトラーやヘルマンゲーリングを引用するのによって、民主主義と立憲主義の衝突がよくわかるものでした。(20代)

● 憲法を考えるにあたり、被書(歴史のみならず、加書の歴史)についてきちんと知った上で、日本のみならず、世界に対する責任を果たすという観点から考えるべきだという視点はあまり持ったことがなかったのだから、へん参考になった。(20代)

● 憲法のことを真剣に考えたことがなかったので、とても勉強になりました。これから子どもも生まれるので、今後の日本もわかっていこう。(40代)

● 伊藤さんのお話と松元ヒロさんのライブがあいまって、とってもわかりやすい憲法の話でした。日本の誇れる憲法を大切にしなければいけない。子どもや孫たちに教える。(70代)

● 伊藤さんは、とても濃い内容をとてもわかりやすく解説してくださいました。現政権の危険性を指摘してくれて改めて気づくことを促されて、とても有意義な講演でした。松元ヒロさんサイコー。企画された皆さまに感謝!(60代)

● 憲法を知らなければ、今の政権のしていることの矛盾がわかってきました。耳当たりの良いことには、もうだまされません。(50代)

● 憲法を知らなければ、今の政権のしていることの矛盾がわかってきました。耳当たりの良いことには、もうだまされません。(50代)

## 認知症Q&A

No. 17 回答はグループホーム 虹の家しおかせ所長 大澤千恵子さん

Q 我慢できずに尿を漏らしてしまふことがあります。どうすればいいでしょうか?

A 認知症高齢者に多くあらわれる症状の一つに尿失禁があります。高齢になると尿意を感じてから排泄まで我慢できる時間が短くなります。それなのに、トイレは遠かったり、トイレが汚いことがあり、我慢できずに出てしまうのだと思います。

落ちて着きがないとか、歩き回るときなどは「トイレを探しているのではないか」と高齢者に聞いてあげるとよいでしょう。またトイレの表示をわかりやすく(目の高さ)、大きくはっきりした文字で「書くとよいでしょう」。

それでもその前に困ることがあるので、身近な人に聞いて



## 増資のご案内

● 城南保健生協では健康なまちづくりのために、健康増進活動をより充実させていきます。ぜひ、増資にご協力をお願いします。

● 増資(10000円)は、プラスしてお金を預けていただくシステムです。

● 皆さまからお預かりした出資金・増資は、生活協同組合法にもつき、生協の運動、事業を行っていくための運営資

## 事務局からののお知らせ

● 出資金・増資に利息は付きませんが、生協を脱退するときには返却されます。

● ① お引越など、住所の変更がありましたら、生協本部まで連絡をお願いします。

● ② 城南保健生協を脱会、または減資するには、死亡の場合を除き、4月1日～12月31日までに申請をお願いします。また、申請がありました減資、脱会による返金は年度末終了後、4月の返金となります(生協法第19条第1項及び定款10条第1項の規定により1月～3月の期間は申請できません)。



来場ありがとうございました

## 腹八分

ミサイル、核実験、北朝鮮の蛮行が世界を震撼させている。その動きに合わせて国内では、改憲勢力が爪を立てて襲いかけてくる。「話し合い」という手段は、はるか後方に追いやり、物騒な紙面や画面が時を得たように踊る。だのに政権の中核では不倫報道ばかりが目立つ。森友も加計学園も問題解決には程遠い。権力の中枢が崩れかけているのではないかと唐突だけれど童話作家小川未明の作品の中に「野ばら」という小品がある。大きな国と小さな国の都から遠く離れた国境に、それぞれに一人ずつ兵隊が派遣されていた。大きい国には老人、小さい国には野ばらが咲いていて、春になるとミツバチがやって来る、平和でどかな時間が過ぎていった。そうしていつの間にか、2人の間には友情が芽生えていた。やがて2つの国に争いが起こり、青年は戦地に赴く。時が過ぎて老人は、小さな国が敗れて、青年も死んでしまったことを知る。ある時老人は馬に乗った青年が、隊を指揮して通り過ぎてゆく夢を見る。青年は黙礼をしてばらの花のにおいを嗅いだところで夢から覚める。改憲勢力、戦争推進勢力が勢力を増している中で、それを押しとどめようとしている勢力も生まれてきている。それらの人びとは、かつてのように特定の勢力を代表するものではなく、青年、子育てママ、学者、そして広い層からの参加が目立つ。政党内含めて広い層から集まる人びとにも、一輪ずつの野ばらが宿っている。